

御霊稻荷神社 御由緒

本庄市児玉町保木野三二四

□ 御縁起 (歴史)

保木野は、北を九郷用水、東を赤根川で限られた平地である。文永十一年(一二七四)の「大嘗会雑事配賦」(金沢文庫)に保木野村の文字が見える。御霊稻荷神社の名が示すように、当社は御霊神社と稻荷神社の合殿である。御霊神社は新里村との村境に鎮座した神社で、『風土記稿』保木野村の項によれば、往時の村鎮守で、龍清寺の持ちであった。「文政六癸未歳(一八二三)十一月吉祥日、別当東方龍清寺」と墨書された再建時の棟札が伝わる。ちなみに、龍清寺は、境内に応永三十二年(一四二五)の石碑がある古刹である。一方、稻荷神社は元々現在地に祀られ、『風土記稿』によれば福泉院の持ちであった。『児玉郡誌』によれば、貞治年中(一三六二・六八)に福泉院の開祖道榮が当地に居住して修験道を修行し、当社を勧請したという。本殿には「奉納稻荷大明神守護 元禄十六年(一七〇三)癸未天九月吉旦、願主武州児玉郡保木野村法印袋等」と刻まれた金幣や「正一位稻荷大明神、安永九年(一七八〇)子二月」と墨書された神璽などが奉安されている。

明治初年の神仏分離により両社はそれぞれ別当から離れ、明治五年に稻荷神社が村の中央に位置することから村社となり、御霊神社は無格社とされた。同四十年には御霊神社を稻荷神社に合祀し、これに伴い社名を御霊稻荷神社と改めた。

□ 御祭神と御神徳

- ・素盞鳴尊すさののお・・・武運長久、厄除け、商売繁盛
- ・倉稻魂命うかのみたま・・・五穀豊穰、商売繁盛

□ 御祭日

- ・元旦祭(一月一日)
- ・初午祭はつうま(二月十一日)
- ・春祭り(四月十五日)
- ・八坂祭(七月十五日)
- ・秋祭り(十月十五日)
- ・新穀感謝祭(十二月十五日)